

No. 88

# 公民館だより

平成4年12月  
宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 内面性

館長 小室 哲 寛

良識ある社会人としての資質として、今回は「豊かな内面性を持つ人」について考えてみたいと思うのである。

豊かな内面性とは精神面の豊かさであり、自己の魂を出来るだけ善いものにしようという向上の志である。

人間の内面性の尊重の思想はキリスト教、仏教の教理の中心をなすものと承っているが、私の脳裏を離れないものは、ソクラテスの「プシキケー（魂）への配慮」という内面性向上を強調する言葉である。

プシキケーとは「魂」ということであるが、彼の弁明の言葉づかいから「おのれ自ら」とか「自己自身」ということと、ほぼ同義と解されているのである。ソクラテスはこのプシキケーへの配慮を人々に生涯をかけて説いたのである。

「プシキケー（おのれ自らの魂）を、できるだけ善くし、すぐれたものとするよう心掛けることが、人間として肝心のことからである。身体や財産、評判、名声等のことについては、このプシキケー以上に気づかっては

ならない」というのである。プシキケーとは、付随物である体や財産、名誉（などへの欲望）などと区別されるべき自己自身、各人の魂なのである。

ソクラテスは、ご承知の通り古代ギリシャの哲人であり、アテナイの青年や学者や人々に話しかけ、論じあい、勧告し、又諄々（じんげん）と論じつづけたのである。デルポイの神託は非常な炯眼（けいがん）をもって彼をギリシャ第一の賢者

と告げたといわれるが、彼はこれを、自分の哲学の出発点である「不可知論」——「私は自分が何も知っていないというただ一つのことを知っているにすぎない」ということを神が嘉し賜うたものと解したのである。

そして人々に「汝みずからを知れ」と訴えつづけたのである。当時は自然学的哲学者（ソフィスト）が多い中に、彼は人間の精神を大切に、人間とは何か、人間はいかに生きるべきかという問題を最初に、しかも最

も真剣に、探求し考究した人である。しかも単に探求しただけでなく、それを身をもって示したのである。自己の思想や信念をいさゝかも曲げることなく貫いて生きた文字どおり「言行一致」の人であった。

ソクラテスは人々の精神を向上に導くためには、先づその人の内面性の不足を感じさせるのが最も効果的な方法であると考えて、人々に思い知らせましたのである。

「人間いかに生きべきかという肝心かなめの根本問題については、あなたも私もお互いに無知であることを自覚して、その知を愛し求めていこうではないか」

「まことの知者は神だけである。人間の知恵の価値はごくわずかなものである」

「どの人も善美のことがら（人間にとって最も立派で善いこと）がら、又は人間の生き方にとって肝心かなめのことがら」

については、実は知っていないのだ。無知なのだ」

ソクラテスの話し方は非常に魅力があり、彼の話に聞き入る人を魅了した。彼の話の心をとらえられ、彼のとりことなつた。それは卓越した話術というより彼の深い内面性が話し方にあつたものである。

「プシケを可能な限り善くすることに配慮し、徳を完きものに近づけることに留意することが真の幸福を得られることである」

「誠心誠意プシケを善いものとするよう努めて一生を過ごせば、生きている間も死んでも悪くはない」

アテナイの若い青年層智識層に厚い支持を得ていた聖者に災禍がふりかゝつた。それは中傷者から「ソクラテスは新しい神々を創つて習慣とおり昔からの神々を拝まないから」との理由でアテナイの法廷に告訴されたのである。市民の心の拠りどころを

乱し青年たちに害毒を流すものとして死刑を求刑した。当時のアテナイの裁判は抽せんにより選出された陪審員五百人による一種の人民裁判といふべき裁判である。

ソクラテスの法廷での大演説は弟子のプラトンの「弁明」に立派な文で記録されている。

七十歳のソクラテスの深い思想、ゆるぎない信念、断固たる生き方が集約的に燦然と輝いているものであり、二千四百年経た現代においても、なお私達の心を心底から揺り動かし深い感動を憶えさせるものである。

しかしこの高潔な信念も陪審員に理解されず、死刑が宣告された。死の直前まで、生き方を魂の問題として語り、肉体は亡びるとも魂は亡びないと言つて、国の法律に従つて、自ら毒杯を仰いで従容として死についたのである。

これ等の行為を導いたのは「いつも彼の心の内面から出る

良心の声」であつたとプラトンは記しているところである。かくてソクラテスの偉大さの一面は彼の「プシケへの配慮」内面性を豊かにすることに、行為の基準を良心の命ずるところに置いたところにあることを知ることが出来るのである。

ひるがえつて現代の私達の日常生活には、内面性が充実しているかどうかといふことは、あまり関係のないことだと思われ勝ちである。しかしながら、例えばそれが、ひとたび重大な問題にぶつかり、その人の判断に迫られるときに、心の内面性即ち精神面が豊かであるか否とでは大きな差異となつてあらわれるのである。これが指導的な立場にある人にとっては尚更である。

実は個々の人にとって、この内面性が豊かかどうかはその人の人格の大きな要素であるのである。

人は誰でも心の中で常に知識

を求めており向上したいという意欲を持っている。年長の方は年少者より内面性において充実している筈であるから、人生経験の中から滲み出たものを汲みとろうとするものである。年長者としてはそのとき与えるべき内面性を備えていたものである。

「親しきは軽蔑を生む」という諺がある。人は親密に交際する過程において、他人を軽侮の眼で見ようになり易いものである。これは他人の心の内面性の浅薄さを看破してしまふか、或は、その人の豊かな内面性を見抜く内面性を自分に備えていないからではないかと思ふのである。

哲人ソクラテスの壮烈な生涯の例は幾分飛躍した感があるが民衆に呼びかけた内面性尊重への警告を思い起し、私はその万分の一步でも自己のプシケの向上を求めて進むよう常に努力したいと思つているものである。

# 行事報告

主事 山下清

## ◎夏期球技大会(八月十四日)

### 野球は三部、ソフト ボールは四部が優勝

公民館夏期恒例の四部対抗球技大会が炎天のもと、帰省者、在郷の愛好者が一堂に会し、盛大に、にぎやかに、和気藹々、剛打好守を織り交ぜ楽しい大会となりました。

青年野球では、若い選手が台頭し若々しい力強いプレーが随所に見られました。新旧選手を適所に配した三部が優勝しましたが、各部の力が接近し好ゲームが展開されました。

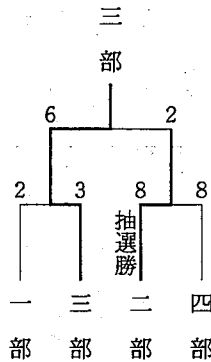
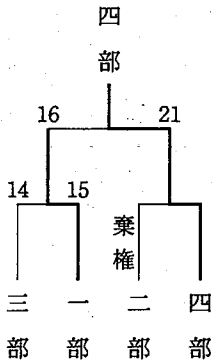
#### 【優勝戦】

三部	4010100	6
二部	1100000	2

一般ソフトボールは久し振りに精鋭を揃えた四部が、豪快に得点を重ね優勝を攫いました。

#### 【優勝戦】

四部	2131536	21
一部	1050000	16



【参加サークル】  
琴遊会 (大正琴)  
琴伝流  
琴修会  
玉音会 (民謡)  
神心流 (詩吟剣舞)  
かゝし座 (舞踊)  
宮津踊同好会 (舞踊)

◎盆おどり大会(八月十四日)  
台風之余波をうけ、時おり小雨がばらつく風の中での盆おどりとなりました。

◎芸能サークル発表会  
去年を上回る参加者を期待し婦人会の方々、公民館役員も浴衣姿で参加しましたが、生憎く天候で踊り手も今一つ弾まず雨足も気になり早めのお開きとなりました。

◎宮津市民駅伝  
厚くお礼申し上げます。

◎由良クラブ連勝を飾る  
好天の駅伝日和にめぐまれた十一月三日、第二十二回宮津市民駅伝競走大会が栗田半島を主要コースとし、六区間二十・五

芸能サークル発表会が多回の方々のご協力と、同好の皆様ご理解と熱意熱演により、三百人を越える観客の声援を受けつゝ盛会裏に意義ある発表会を成功することが出来ました。

◎由良クラブは優勝候補の筆頭とはいえ、各チームとも年々

力をつけてきており一抹の不安がありました。由良クラブ選手は各区间とも快調に走破し終って見れば六区間中四区間で区間賞を受賞するという快勝ぶりでした。

一位 由良クラブ

一般の部 二位 府中クラブ

三位 上宮津体協

また、最優秀選手として、由良クラブ第三区走者である津田一君が選ばれ優勝に華をそえました。選手の皆様ご苦労さまでした。各地区自治会長さまを始め多くの皆様のご声援有り難うございました。

◎文化祭 おゝ賑わい

八百人が来館(十一月八日(日))生憎の天候で人が心配されましたが、小雨模様が幸しか朝からお客様の出足は好調で婦人会バザー会場から賑わいが広がって参りました。

展覧会場では、心技技法を小鉢に集約された見事な活花が華やかに会場を彩る中で小中学生

の書画や作品のひたむきな力作に敬服させられました。

苦心のあとが偲ばれる写真、

丹念に描かれた絵画、ユーモラスな俳画等々、作者を思い浮べ

つゝ作品が鑑賞出来るのも地区

文化祭ならではのことで。精

妙な能面のゆかしき微笑に我が

心を振り返らされたり、茶席に

招かれ、また丹精こめられた盆

裁を鑑賞することが出来たり、

久し振りに友人に逢うことが出

来たり意義ある一日でした。

今年は特に中央画壇で、ご活

躍されています宮本地区ご出身

の宮本和彦画伯が、郷里由良の

風景を題材に大胆に赤を基調と

した大作を数点ご出品下さり展

覧会場を一層盛り上げて下さい

ました。中央から遠くこうした

機会に恵まれない私どもも素人

なりに大きな刺激となり意義あ

る文化祭を閉じることが出来ま

した。ご厚意に厚くお礼申し上げ

ます。

## 庄内の由良と丹後の由良

由良の歴史をさぐる会 中 西 俊 夫

日本各地に「由良」という地名は数ヶ所ありますが、ここで

は庄内の由良と丹後の由良との

かわりについて書いてみよう

と思います。

十一月六、七日、庄内の由良

小学校から、校長先生他児童た

ちの訪問を受け、小学校で児童

たちによる交換学習があったこ

とは、皆さんもよくご存じのこ

とと思います。

それでは、同じ地名というだ

けで何でまた遠くはなれた庄内

の由良とこのような交換をする

のだろうと思っておられる方も

あるのではないと思います。では、

どういうことからこのような関

係が結ばれたのかをさぐり、ご

理解の一助にしたいだければ

と思います。

なお、このことについては由

良の歴史第二号(一九八一年刊)

「庄内由良訪問記」四方寿朗氏

記」によってふれられています

が再度ここに紹介をすることと

します。

まず、庄内由良との関わりで

出てきますのが「蜂子皇子」と

いうお名前です。

この皇子は(庄内由良よりお

くられた資料による)

不運の皇子

今を去る一千四百年前の推古

元年(西暦五九三)、出羽三山

神社(月山、出羽、湯殿山神社)

を開かれた御開祖、蜂子皇子

(五六二～六四一)は、第三十

二代、崇峻天皇の第一皇子で、

ゆくゆくは皇位を継がれる方

でありましたが、推古元年、崇峻

帝が蘇我馬子によって害された

ことからご自分の身にも危害が

及んできたので、従兄弟の聖徳太子のすすめもあって出家をされました。

その頃の日本は、百済から仏教が伝えられ(五三八年)、仏教を国教化しようとする蘇我氏の「崇仏派」と、日本古来の神道を護持しようとする物部氏との間に激しい争いが起っていたのです。

崇峻天皇は、崇仏派の蘇我氏によって天皇の位につかれたのですが、神道と仏教の矛盾に気づかれ、蘇我氏の思うように政をすすめませんでした。そのため、弑された、といわれております。

由良の八乙女浦に上陸

蜂子皇子は出家してなお、身に危険が迫ってくることから、丹波国の由良港から船出し、途中、佐渡島に立ち寄り、さらに北上して越国の「イッハの里」(現在の庄内地方)の港、由良の八乙女浦(現鶴岡市)近くまで来しました。その時、八人の乙

女が舞いながら一行を招くので、皇子は大変不思議に思って上陸されました。

三本足の「靈鳥」に導かれ羽黒山へところが、東の山並みを見るのと神々しい紫の雲がただよっているのです。そしていつの間にか飛んで来たのか、すぐ目の前に三本足の大きな鳥が一羽、東の方に向ってしきりに羽ばたきをしているのではありませんか。

蜂子皇子は、これは神のお導きであろうと感じ、三本足の鳥の導くままに羽黒山に登られたのです。

伊弉波神を拜し出羽神社を創建

羽黒山に登られた蜂子皇子は、靈気のただよう山頂下の阿久谷に下り、そこで滝にうたれ、幾日も幾日も難行苦行の修業をつまね、ついに国つ神の伊弉波神を拜され、羽黒山頂に「出羽神社」を創建されたのです。

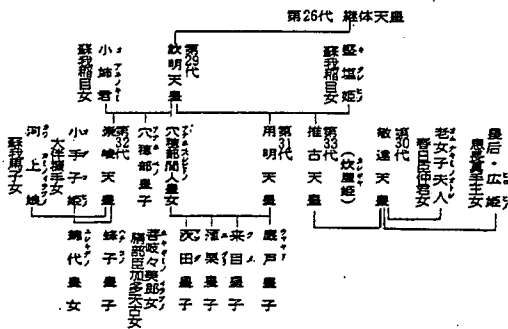
時に推古元年のことでありました。出羽三山神社はこの時を以て御開山の年とし、蜂子皇子

を「御開祖」と仰いでおります。能除仙とも称され

「羽黒修験道」を創立

蜂子皇子は、さらに修行をつまね、ついに「行」によって心身の修養と国の隆盛を祈る「羽黒修験道」を創立され、よく人びとの苦しみを除かれたことから、能除仙とも称され、今日の出羽三山繁栄の礎となられたのであります。

蜂子皇子系図



御開祖・蜂子皇子は、その後、奈良の都に再び帰ることなく、舒明十三年(六四一)羽黒山で

没し、羽黒山頂の御墓所に篤く葬られて、人々の幸と、国家の繁栄、世界の平和を見守っておられます。(「浪漫漂う海ものがたり」庄内由良)

以上、庄内由良に伝わる蜂子皇子の伝説を庄内の資料を紹介することで、蜂子皇子とはどのような方であったかおおよそおわかりと思います。

また、庄内由良の地名のこりについては、皇子に従って当地に行つた舟人たちが、皇子の身辺を守るために住みつき故国丹後の国由良の浜にちなんで「由良の浦」と名付けたのだという説が庄内では伝わっているということです(庄内日報所載) この記事を見ますと、庄内由良の方々と私たちは今から一千四百年の昔、遠い飛鳥時代のころから連綿とつながった同族なのかもしれません。遠い伝説のおりなすロマンあふれるお話だと思ひます。

この場合、史実もさることながら、由良の人と由良の人のつながりこそ、大切に育てていかなければならないことだと思います。

飛鳥時代の頃からたえてなかつた結びつきが、今になってようやくはじまった交流のおこりは、昭和五四年、鶴岡市由良からはるばる佐藤儀助さんという方が、当地由良公民館を訪ねて来られ、「鶴岡には崇峻天皇の御子蜂子皇子が、丹後の由良の船頭に送られて来て、鶴岡の由良に上陸し、出羽三山を開かれたという伝説があるが、当地に何かこれに関わる言い伝えが残っていないか」と尋ねられたのははじまりになります。

ついで翌、昭和五十五年秋、由良の歴史をさぐる会会員五名、鶴岡市由良を訪問、鉄道にておよそ七百料、假に伝説にしても一千四百年の昔、海路はるばるこゝまでと思うとさぞ難渋の旅であったらうと思うことしば

しの感がありました。

当地では、いろいろのことを聞き、また見せてもらい、特にこのことについての当地の人達の熱い思いいれがいまも強く印象に残っております。

次いで、昭和六十年秋、庄内由良より神林共弥氏他十六人の方々の訪問をうける。この時、庄内由良と丹後の由良両自治会によって、蜂子皇子を送った由良の舟人たちの子孫と、その舟出を見送った人達の子孫による「由良の浜の盟約」が結ばれたのであります。

そして、今回の訪問となったわけであります。

平成五年、明年は蜂子皇子が庄内由良に上陸された年から数えて一千四百年になることで、庄内ではこれを記念し盛大な記念行事が計画されているということでありませう。

その折には、庄内由良訪問の旅が話題になるのではないでしょうか。

## 庄内の由良小との交流

由良小学校 飯 田 和 子

「こんにちは。」

「こんにちは。」

「はじめまして。庄内の由良から来ました佐藤です。」

元気のよい声が、当校の玄関にこだました。

平成四年十一月六日の正午すぎのできごとである。

歴史をさぐる会の四方先生に案内されて、山形県鶴岡市由良地区から、自治会副会長の佐藤峯男さんを団長に、由良小学校長の渋谷正氏、PTA会長の佐藤義幸氏、児童会担当の長谷川功先生、児童会から佐藤正幸君、遠藤浩君、佐藤真奈美さん、佐藤悦子さんの、大人四名子供四名、計八名の遠来のお客様をお迎えたのである。

事の始まりは、丁度夏休みに

入って間もなくの事であった。山形県鶴岡市立由良小学校長より私あてに一通の封書が届いた。四月の異動で校長が代ったが、前校長と同様、丹後と庄内の由良の交流を深めたいことと、来年は「蜂子皇子」が出羽三山を開いてから千四百年にあたるので、それを記念して庄内の由良から丹後の由良を訪問しようという計画が自治会でなされたこと、訪問日は十一月六日にしたがどうかという問い合わせだった。

早速、中西自治連会長様と歴史をさぐる会の四方先生に連絡したが、遠く離れた山形県から本当に來られるのかな——と半信半疑のまま日がすぎた。

思いおこせば、平成元年九月

庄内の由良小学校長より、学校独立四〇周年学校祭をするので、友好浜の盟約を結んでいる丹後の由良の学校と交流を深めたいので児童作品を送ってほしいとの依頼があった。寝耳に水とはこの事で、びっくりして昭和六十年の文献を探し、庄内の由良と丹後の由良の関係を調べた。以後、毎年児童作品や、行事の写真を交換しており、平成三年二月には京都新聞にこの交流が写真入りでのり、その記事を送付したところ、庄内の由良自治会に非常に喜んでもらった。本校の校長室には、今も庄内の由良小学校の写真をはっている。

こうしているうちに十月二十四日宅急便にて庄内の由良自治会よりガラスケース入りの御殿まりが、当方の自治会と小学校に送られてきた。続いて「お土産にとりんご百個が送られてきた。来訪が本決まりとなったので、当由良地区としての迎え入れの準備が始まった。

小学校としては、朝会で歴史的な事を話し、各学年から『寄せ書』を作ると同時に、児童会としての歓迎の準備も始まった。四年生以上の児童は手分けして歓迎のアーチ作り、説明できるように自分達の住んでいる由良地区の学習、庄内の由良小学校児童全員へのプレゼントとして特産みかんを形どったワッペン作り等である。

十一月六日、遠来のお客様には早速、給食を食べていただきたい。お土産でもらった「りんご」も当日の給食の中に入れてあった。そのあと、全校児童が参加して、交流会が行われた。庄内の由良小児童からは、地区の紹介、学校の紹介があり、べにばな団体の旗と児童の作品、それに婦人会員さん達が作られた貝のマスコットに、庄内の児童の手紙をそえたプレゼントをいただきたい。当方からは、地区の紹介、学校の紹介をした後、全員による校歌斉唱と由良小唄のおどりを披露した。庄内からみえたお客様も、おどりの輪の中に入られ、文字通りの由良は一つであった。そのあと庄内の由良小児童全員に、子供達手作りの『みかんワッペン』をプレゼントした。

このあと、歴史をさぐる会の中西夏江さんが、わざわざこの日のために作って下さった、手作りの紙芝居、庄内の由良と丹後の由良を結ぶもともなった蜂子皇子の紙芝居をしてもらい、千四百年前の昔に思いをはせた。続いて、六年生との交流会がありバスケットを楽しんだ。汗をかいて校長室へ入ってきた庄内の子供達をみて、庄内の由良自治会の佐藤さんは感激もあらたに「来てよかったですわ。」の連発であった。又、児童会役員も、その後、交流会をもつことができた。

こうして、終始なごやかなうちに交流会は終わった。あとは、天の橋立を見学されるので、マイクロボスまで見送りに行く子もあり、今聞いた庄内の由良小の子供の名前を呼び合うなど、子供達のすばらしさをみせてくれた。

自治会からは、御殿まりのお返しとして、丹後ちりめんのテールブルセンターを、育友会からは、りんごのお返しとして、みかんを送ってもらった。

こうして、人々の好意に支えられた交流会は終わったが、その後それぞれの学校の子供からプレゼントしてもらった物に書いてあった名前をたよりに文通も始まっているようである。

二十一世紀の由良をになつてくれるであろう子供達が、こうして交流を深めてくれることは喜ばしいことである。来年度は是非共、庄内の由良を訪ねてほしいとの礼状も受けとっており、「私達のふるさととは、この丹後の由良です。」と、熱っぽく話された庄内の由良自治会の佐藤さんの言葉が、今も耳に残っている。

# 庄内の由良との交流会

塩見直紀

六年中村恵

## 庄内の由良小の人達が来られた

十一月六日、庄内の由良の代表が八人来てくれました。ぼく達六年生はいっしょに給食を食べました。

みんな一人づつ自己しょう介をしてから食べました。女子のほうでは庄内の由良の人と話をしていたけど、男子はまったくといっていいほどしゃべりませんでした。

五時間目になると、体育館に行きました。前には、代表の人がいました。子ども四人と、大人四人でした。庄内の由良小の人が、山形県のマークや木、花などをしょう介してくれて、今年は、べにばな国体があつて、それに参加したことなど数えてくれました。続いて、つる岡市のことや庄内の由良は、海のすぐそばにあつて、海開きなどに

参加したり、学校祭をしたり、マラソンをしたりすることを教えてくれました。ほかに、七夕音楽会をしたりすることを数えてもらいました。

丹後の由良からは、児童会の人、いろいろな丹後の由良小でする行事や由良の歴史をしょう介しました。

そして、由良小唄をぼく達がおどり、二回目では庄内の由良の人もいっしょに入ってもらつてやりました。

ぼく達六年は、水おにと、バスケツトボールをしました。庄内の由良の人は、足も速いしバスケツトボールも、とても上手でした。

これがきっかけで、今まで以上にいい関係になりたいです。

十一月六日金曜日の五時間目に庄内の由良小の人達との交流会がありました。丹後の由良小の人達は庄内の由良小の代表の人達をばく手でむかえました。

大人四人、子供四人、来られました。

初めは、庄内の由良小の人の発表でした。山形県つる岡市のことや、由良の人口など説明してくれました。そして、庄内の由良小の主な行事などを説明してくれました。丹後の由良小と同じことがいくつもありました。

庄内の由良にも、丹後の由良にも、共通している所があります。それは、「海」があることです。夏はお客さんがきてにぎわっている所も同じです。庄内の由良小のすいそう楽部の人達は、べに花園体の時パレード

を行ったそうです。海びらきの時もパレードを行うそうです。私達の丹後の由良小の海びらきに行っていることは、砂の造形です。

私は聞いていて、とても感心したことがあります。それは声が大きく、はつきりとしやべつていました。マイクなしでも体育館全体に聞こえるくらいの大さきでした。これだけはとても感心しました。

庄内の由良小から、おみやげをもらいました。りんごでした。それから、貝で作ったキーホルダーも一人一つずつもらいました。丹後の由良小も、みかんのワッペンを一人一つずつ送りました。こうして交流会は終わりました。これからは由良同士交流を深めていきたいです。



## 子らに蘇る

中西夏江

千四百年過ぎてぞ秋の空間に暫し蜂子皇子通ひ来

由良港を由良の水夫らに護られて航路北指す遠つ世の皇子

皇子発ちし丹後の由良と皇子着きし庄内の由良の縁たふとぶ

山形県鶴岡市由良を整然と述べて佐藤さん達はかがやく

京都府宮津市由良を詳細に語る瀬田さん達も輝き

述べる子ら聞く子ら心あたらしく十一月六日を健やかにゐる

二由良の子らが馴染みて声あげて球技わきたつよき時間帯

蘇り来て蜂子皇子はいま子らの胸にひとひらの夢咲かせたり

出羽三山の開祖となりし皇子なれば庄内十方仰ぐまぼろし

飛鳥とふ時世の風に流離せしかぎろひびとよ蜂子皇子は

蜂子皇子は六世紀崇峻天皇の御子で、時の政争による迫害を逃れるために出家、大和から丹後由良を経て海路北上し、庄内由良に上陸。修行して出羽三山を開いたと伝えられる。

両由良は昭和五十三年以来交流し、昭和六十年には、「友好浜の宣言」に調印した。今回は由良小学校における交流学習を重点とする庄内由良からの来訪であった。

佐藤さんは庄内由良小学校、瀬田さんは丹後由良小学校のそれぞれ児童会長である。

## 健康いろはカルタ 22

四方 寿朗

え エンマ大王の好きな甘党

平成四年九月十月の由良の老人検診で総数一一八人中、血清コレステロールの高かった人が四三人(三六・四%)あった。

昭和六一年には一五五人中一人(一一・六%)であった。大変な増え方だ。肉や牛乳を多く摂る欧米型の食生活、野菜や繊維質の不足、食べ過ぎ、運動不足等の理由が考えられる。中風や心筋梗塞の急増が心配だ。運動不足で筋力が衰えたと、運動してもカロリー消費が少なく、やせない。今、地球の何処かで何千万という人々が、飢えのため死線をさまよっているという。ダイエットが苦しい等と言うのはゼイタク。死んでからの地獄もさる事ながら、生きて地獄の苦しみを味わう方がもっと怖い。

ひ 百まで生きる気で養生

生活が豊かになり、社会保障制度の向上、医学の進歩などにより、日本は世界一の長寿国になった。人の寿命は親からもらった素質、生まれてからの生活環境と運で決まる。この中生活環境は自分の努力で或る程度変えられる。「早やく死にたい」などと言う人は間もなくボケるか死ぬ。丈夫で長生きするのに一番大切なのは、生きる気力だ。いろいろな障害や病気と戦いながら、必死で生きている人々を見ると、少々の事で弱音をはいては申訳ないと思う。この前の戦争で私と同年輩の多くの若者が、お国の為にと死んでいった。将来の夢がいっぱいあったろうに。その心情を思うと、私の胸は今でも熱くなる。

## 文化祭バザー奮闘記

由良婦人会 中 西 八重子

里センター一階の和室では、テーブルの用意も整い、お客さんを待つばかり。台所では、前日から本部役員さんたちの手で作られたおうどんのだしとぜんざいがおいしそうな湯気をたてています。

「おうどん一つとぜんざい二つ」の注文に、一同張り切つてのスタート。かき入れ時には座る場所もなくなるほどの盛況ぶり、エプロン姿のウエイトレス(?)が所せましと歩きまわっていました。

時には、「おもちがちよっと固いで。」とか「うどんのだしが少しからいみたい。」といった暖かい(?)助言もありました。子どもたちをはじめ「おいしかったで。」「ごちそうさん。」「

の声にすっかり喜んだスタッフ一同でした。

それでもしばらくは、うどんもぜんざいも食べたくないなあというのが正直なところでしょうか。

一方ロビーでは、地元の余剰野菜、果物、漁連の塩干物などがフロアーいっぱい並べられました。あまりの量の多さに、にわか仕立ての売り子さんたちは内心「こんなたくさん売れるんかいな。」と不安にかられたものでした。

そんな心配も何のその、開店を待ちかねたお客さんが、お目当ての商品を得ようと次々と来られ、昼前には煮干しなど売切れになる品物もありました。最後まで残った塩サバも売り

子さん達のしつこいほどの売り込みでとうとう全部売り切れ、魚の臭いのしみついた手をぶきながらホッと胸をなでおろしました。

忙しい合い間をぬって、二階の展示会場もしっかり見学してきました。絵画、書道、写真、生花などどれをとってみても力作ぞろい、門外漢の私はただただ感心するばかりでした。仕事や勉強などで忙しい人たちが、どんな風に時間を作ってこんな作品にとりこんでおられるのか、そんなことも感じたものでした。また和室ではお茶のお点前が行われ、無作法な私もちよっぴり緊張しながら、おいしいお茶をごちそうになりました。この前までセーラー服で学校に通っていた娘さんが、美しく装われた様子に見とれる私でした。朝の八時から夕方まであわただしい一日でしたが、地域のたくさんの人達とのふれあいは、外で働いている私にはとても新

鮮で暖かいものを感じさせてくれました。

また、たくさんの子供達が来ていましたが、この子たちが成長して次の世代の由良の文化を作っていくんだなあと思えました。

それについても、毎年ぜんざいを楽しみにしていて、ある時は二人前もいただいたという末娘が、今年、進学のために親元を離れ遠い地に行ってしまったのは淋しい限りでした。これも成長の過程で仕方のないことですが、そんな意味でも今年の文化祭は心に残るものとなりました。

最後になりましたが、お世話いただいた地区の役員の方々、ご協力下さった地域の皆さんに心から御礼を申し上げます。

# 公民館、婦人会の盆踊り大会

川崎 静代

春の由良の戸 朝霧晴れて  
出舟祝うか かもめなく  
一度来なされ 丹後由良  
広い浜辺で 踊って明かそ

ご承知の「由良小唄」に始まり「永平踊り」そして「宮津踊り」と、例年の盆踊りが、去る八月十四日、由良の里センター前広場で行なわれました。当日は、主催側から、公民館文化部の役員様をはじめ、婦人会の会員の皆様のゆかた姿が一きわ目立ち、盆踊りの雰囲気を感じ上げるのに充分でした。

私事ですが、「由良小唄」「永平踊り」などは、子供が小学校の時、運動会等で何回も習ったはずですが、なかなか思い出せなくて、苦勞の末、やっと踊

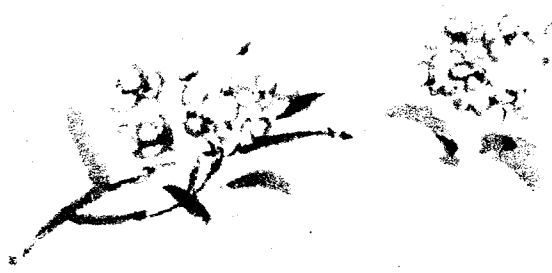
れるようになったと思つたら、別の踊りに変ると云う有様でした。

今年の盆踊りは、途中で小雨がパラつくと言う場面もあり、踊りの輪は、もう一つでありましたが、日頃、私達が忘れかけている心のゆとりのようなものを感じさせてくれたと思います。このような盆踊りを行なう事によって、お互いの和の精神と云いますか、地域の人々のつながりを深めることが出来、お互いにより良い人間関係も醸成してゆくのではないかと思われま

す。日時については、主婦にとってお盆は、朝夕の墓参をはじめ、帰省客の接待などたいへん忙しく、盆踊りに行きたくて

も行けないと云う声も数多く聞きます。過去には、うら盆にされた事もあった様ですが、開催の日時については、賛否両論が

あり、たいへん難しい問題かと思いますが今後の課題にしていただき、「盆踊り」の輪が更に大きくなる事を願っております。



## 四部対抗球技大会に優勝して

中西 努

今年、僕は四部対抗の球技大会に、参加させてもらいました。僕はこの球技大会に、毎年参加させてもらっています。昨年、おとしと、僕は愛知の学校へ行って来ました。しかし、お盆で帰って来ると、球技大会に参加させてもらってしまいました。他所に出ていると、先輩や後輩に会う機会が少なくなるので、球技大会に出れば、なかなか会えない人達にも会う事が出来るので、毎年たのしみになっています。今年、僕達三部は、結果的に、優勝出来ました。僕自身は、あまり活躍出来ず、チームの人達の足をひっぱって申し訳なかったです。僕は野球をするのは好きなのですが、この四部対抗球技大会では、もっと好きな事が

あります。それは、試合後の反省会をやる時です。試合に勝つても負けても、反省会をする時は楽しいです。日ごろ先輩の人達とは話す機会がほとんどなく、あいさつするぐらいしかなかったのですが、反省会の時は試合の結果についてみんなが、話すので、僕達も話に参加出来るし、とても楽しいです。僕にとっては、試合の勝ち負けじゃなく、先輩の人達との話しの場があるだけでも、これからの球技大会には、参加して行きたいと思えます。しかしやるからには、優勝をめざしたいし、来年も、優勝出来るようがんばりたいです。



## 由良観光祭剣道大会

山田 祐 司

小学生団体戦の試合で、ぼくは、先ぼうで一番、初めに対戦しました。

一回戦が始まりました。ぼくは簡単に、一本を取り、勝ちました。ほかの人も負ける人がいなくて、一回戦は全員が勝ちました。

ぼくはそのときに、今年は「二位ぐらいには、入れるかな」と、思いました。

そして、二回戦は、由良チームはよゆうで、勝ちました。「ああ、次はいよいよ決勝戦やなあ。」

と、思い、面を、はずしてました。

そして、時間が過ぎ、決勝戦が、始まりました。「礼。」で試合開始となりました。相手は、

上宮津チームでした。決勝戦もぼくが先ぼうで一番初めの試合でした。

いつもなら、一本勝負で勝つたり負けたりするけど、さすがに決勝戦は、相手の四年生に、ねばられ、引き分けとなりました。礼をして、すわって、次の試合を見ていました。

「二位かな。」

と、思いながら、次ほうは、一本取られ、中けんは、一本取って勝ち、そして、大しようは、引き分けで、決定戦は、由良は、大しようが代表で、上宮津は、平田という人を出してきました。試合はじめと言われ勇かんに面を打って由良が勝ちました。今年の試合は、つかれたけど、優勝してうれしかったです。

# 少年野球

## 初めての京都大会

綱本俊之

僕達は、夏期大会で、宮津市少年野球大会に優勝したので京都大会に出場しました。

七月三十日に、由良をバスで出発し京都に行きました。

試合をする会場につくと、見たことのないユニホームを着たチームがたくさんおりました。

グラウンドを見ると一つのグラウンドを四か所使って四試合もしていました。荷物をおいて、弁当を食べました。食べ終わるとランニング、体操、キャッチボールなどの軽い練習をしました。そして試合をする場所に行つて、サイン、選抜メンバーなどを聞きました。そしたら、審判が、「キャプテン集合。」

といったので、審判のいる所

に行きました。相手のキャプテンとジャンケンをして先こう後こうをきめるのですが、ぼくが勝つたので先こうをとりました。

審判がもう一度集合と叫びました。みんなで「ファイト、オー。」と叫んで審判のいるところに集まりました。

試合が始まりました。一番バッターは、サードゴロ二番はフォアボール、そこで三番四番が、連続でホームラン、五番もヒットで出塁、でも六番七番が続かずチェンジになってしまいました。

守備につきました。ピッチャーはこの回は、ストライクがよく決まっています。でも三点も入れられてしまいました。二回

になると暑さときん張で相手のペースにのみこまれてしまいました。結局十四対三で負けてしまいました。負けただけで京都大会といういい体験ができてよかったです。

## 芸能サークル発表会

琴遊会 中西幸子

十月二十五日に由良地区で行われました、第一回芸能サークルに、大正琴の琴遊会の方より出させて頂きました。

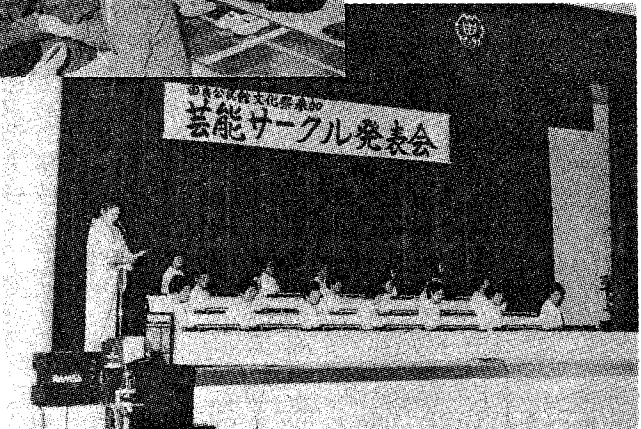
以前より度々他のサークルよりお誘いを受けましたが、時間が無い、又忙しいなどと云って飛び込む事が出来ませんでした。が、大正琴が由良でも教えて頂けると、色々説明を聞いているうちに、今迄まるで楽器に縁のない生活をして来た私でしたが、私にも出来るかも知れないと思ふ様になり入門する事になりました。

月二回の練習日には、家族も快く出してくれますし、教室の方では皆さん和氣藹々で、楽しく勉強させて頂いております。此の度芸能サークル発表会があると云う事で練習の回数も増え皆さんの気合いも入って来ました。由良で二教室の合同の練習になり又二重奏と云う事になるとなかなかピッタリ来なくて、幕の開く前迄完璧ではありませんでした。それにこれだけ一生懸命してもどれだけの人に聴いてももらえるかと本当に心配でした。

それが幕が開くと沢山の区民の皆さんが来て下さったの意外にも大して上る事無く出来た様に思ったのでホッと、

それ迄の緊張がウソの様でした。今思えばその緊張があればこそ練習にも実が入り上達出来るの

だと思えます。此頃さかんに聞く生涯学習の言葉の通り私自身新しいものと



の出会いを大切に、これからもチャレンジして行きたいと思えます。

まずは、大正琴を楽しみなが

## 芸能サークル発表会

琴修会 酒 本 ゆくの

「くじ引きにしようか、それとも誰か書いてくれる」「何のくじ」「公民館より原稿頼まれているの」「くじ運は強い方なのにペンを持つ羽目になってしまいました。

何のためらいもなく始めた大正琴、もう二年五ヶ月が過ぎました。

お琴を通して素晴らしい「出合」が生れ、指先を使うことで「ボケ防止」となり、目が楽譜に集中する事で「精神統一」となり、練習することで美しい「メロディー」を作り出す事が出来、何とも云へない喜びを味わいます。

ら、又仲間の皆さんの足を引っ張りながら続けて行きたいと思つて居ます。

月二回レッスンをして頂くのですが、正しい姿勢、ピックの持ち方、指の使い方、拍子の取り方、いろいろな記号、毎回の様に丁寧に教えて下さいます。

六十歳を越して中々指も思うように動かないし拍子も中々取れないこともあります、先生や皆さんの優しさに勇気づけられ頑張っています。

十月二十五日のサークル発表会も近づき練習にも熱が入って来ます。一度テープに吹き込んで聞いて見ました。「上手やなあ」。よう揃っているなあ。自画自賛で満足しています。「あ

んたら、もしアンコール云われ  
たらどうする、何弾くの」一同  
啞然として大爆笑となり「弾け  
ん弾けん」と云ったんがよく  
もまあ大胆な」アンコールが  
くるくらいよう弾けたらいゝの  
にな」またまた皆んなで大笑い。  
こうしてレッスンは終わったあ  
も時間の経つのも忘れ四方山話  
に花が咲きます。ほんとに楽し  
い一時です。

いよいよ当日です。私達グルー  
プは当日の午前中リハーサルを  
させて頂きました。ちゃんとお  
膳立の出来たステージ。大正琴  
の場合準備が大変なのです。こ  
もかゝわらずせつせと気持ち良  
く動いて下さる役員さん達の姿に  
は頭が下る思いでした。今日の  
日の為に館長様始め関係者の皆  
様のご苦労に感謝しながらリハ  
サルも順調に終り皆んなの顔も  
いきいきとしていました。

琴遊会の皆さんのメロデー  
で幕が開きました。無限なるハー  
モニがたくさんの人々の心に

響きます。また琴伝流の方の発  
表も静かに流れるメロデー。  
素晴らしい音色の美しさに魅了さ  
れます。順番が近づくにつれ緊  
張感が高まってきました。お稽古  
の合間に造ったバラの花を胸に  
つけちよびり若返った気分分  
でステージに向かいます。初舞台  
ではないので若干心の余裕も出  
来ているつもりでした。

いよいよ本番です。曲は通りや  
んせ。出船。長良川艶歌の三曲。  
耳をすまして出だしを待ちます。  
「あゝ」テープが聞こえない。  
私が上がってしまったのか。ど  
うしよう。誰のに合わせたらい  
の。もう頭の中は真白です。無  
我夢中のまゝ、三曲は終りまし  
た。先生に申し訳ない。岩滝や  
宮津から来て下さった同会の皆  
さんに合わず顔がない。失敗の  
うちに発表会は終りましたが、  
このつたない演奏にも一曲ごと  
に大きな拍手を頂きほんとうに  
嬉しく思いました。今日の失敗  
を糧に挫折することなく少して

も上手に弾ける様頑張っていこ  
うと心を新たにしました。

玉音会、神心流、かゝし座、  
宮津踊同好会の皆様方の数々の  
発表もそれぞれに立派で感心し、  
あんなに踊れたらいいなあ、あ  
んなにうたえたらいいだろうな  
あ。色々と思いつながら楽しく見  
せて頂きました。

今日もお琴の練習日です。夕  
初めてを試みとして由良文化  
サークル発表会があるので、神  
心流吟詠や扇舞も参加しようと  
話し合ったのは七月下旬でした  
でしょうか。八月は練習夏休み  
でしたが急ぐ必要から八月早々  
発表テーマや、演目について北  
野誠治氏、山田ご夫妻と相談い  
たしました。「日本人の心を詠  
う」というテーマを決め、七つ

食もそこそこに家の者にひやか  
されながらそそくさと家を出ま  
す。もう皆んな集まっているか  
な。お世話になっっている川崎さ  
ん宅へ急ぎます。美しいお部屋  
には或る時は清楚に、或る時は  
豪華なお花が活けられ私達を待っ  
て頂いています。

今夜も美しい音色が響く事  
でしょう。

## 芸能サークル発表会

神心流詩吟由良教場 大森章弘

の詩を選び、扇舞、劍舞、華道  
吟、書道吟、独吟、合吟、連吟  
等の大枠を決めたのでした。  
九月になってから練習を開始  
して、皆んなの同意を得ながら  
分担を決定してゆきました。ナ  
レーションの文は私が担当し、  
テーマにマッチするよう丁寧な

説明で、日本人の心をできるだ  
け表現しようと思いました。詩の

作者の人となりや、詩の説明を工夫したのですが時間の都合で、ところどころ短くしました。

九月下旬、北野氏・山田氏と構成、演出について協議し、由良祭が終ってから本格的な練習を行いました。扇舞・剣舞との合同練習は同志社中学校施設講堂が広く適当であったので、使用させていただきました。ありがたく練習に絶好の場所でした。

私は怪我のギブスが九月下旬になってはずせたので、それから字のくずしを辞典をみながら練習しました。書道吟「偶成」の漢詩ですが、なかなか覚えられず冷や汗ものでした。又、「近江八景」の詩を全員で吟ずることになったので、八景の八つの場所がよく解るように模造紙二枚に書きました。その他発表演小道具は、剣舞「城山」用の「西郷隆盛胸像デッサン」と「金色の満月」は山田敦子氏、華道吟「太田道灌」の華道道具は井上勝子氏、「垣」は北野氏

等々、多くの方々にお世話になり、発表を盛り上げていただきました。

発表会関係者の方々には世話役として前日リハーサル、当日本番のみならず、数々のお世話をいただき、本当にありがとうございました。世話役皆様の献身的な御尽力やささえによってこの発表会が開催していただけたものと発表者一同ありがたく心より御礼を申し上げます。

琴、民謡、舞踊等大人だけでなく可愛らしい子供達の発表もあり、由良の芸達者の多さを実感いたしました。不断の芸能サークルの活動の発表と言うことでしたが、それぞれの活動の様子がよく分かったように思います。いづれの発表も不断の練習活動の一部分でしょうが、皆様が楽しく、和気藹々と共通のご趣味に精進しておられる姿が目につかぶような発表会であったと思います。各サークルはそれぞれ絶好のPRの場としてとらえ、

趣向を凝らしたので、観客の皆様にもその良さを知っていただくことも出来ました。又、それぞれ発表が一部分ではあっても発表できたことは、それぞれ好きでやっている趣味とはいえ、やる気、やり甲斐をもてたのではないかと思えます。ご覧いただき、何かに興味や関心をもっていたらいたならば、それがサークル活動の活性化につながり、公民館活動の活性化にもつながるのであると思います。

近年心豊かに生き甲斐をもつて暮らすために活動を続けたいと願う人々が増えていきます。誰でも楽しく学べるようにと言う生涯学習を実行するためにも、文化サークルを知っていただきたく思います。この大成功だった発表会は、理想的には毎年お世話になりたく思いますが、数々の問題もありますので隔年にも継続して計画していただければ幸いに存じます。

由良の文化的行事やサークル

活動の活性化のためにも、大変有意義な第一回発表会でした。重ねて開催に御尽力下さいました関係者の皆様にご心より敬意を表します。本当にありがとうございました。





# 芸能サークル発表会

かがし座 中 西 満さ子

発表会までには綿密な打合せのため館長はじめ文化部役員、各サークル代表者等再三の会合がもたれました。初の試とあり日頃の練習成果発表のチャンスでもあるのでそれぞれの代表者としても意欲に満ちた集いでありました。

十月二十五日(日)気がかりな天候もまずまずで観客の出足も良く小学校体育館には約二百人余りの人達で盛況の開幕となりました。

トップをきって琴の演奏：日本の古典楽器としてのイメージが定着してきたのであろう、その安らかな音色を静かに楽しんでいくようでありました。民謡の独唱：やゝ緊張しての登場、味わいのある歌声におしめない

拍手が送られました。詩吟、剣扇舞、書道吟、華道吟、それぞれの持ち味を生かして息もピッタリ、構成もすばらしいものでした。

舞踊とてもその通り、内容にふさわしい扮装でおそらく出演者はスター気分になっていた事でしょう。観客には日常を忘れて一瞬夢を見させてあげたい気持ちで、主人公になりきっての三分間、舞台の袖では「頑張って」、「ウン上手に踊れた」、あついで眼差しがそそがれていました。

可愛い子供連の踊りには拍手と歓声が交錯しておりました。若者から年配の人まで一会場に集い演じる者への温かい声援。その幕間にも久々の出逢に安否を確かめ合う等、和気藹々とし

た雰囲気をもし出していた発表会でした。

最後に「かがし座」私達のグループの存在について紹介させていただきます。現在八名が意気統合して十五年程前から、自分達の好きな踊りをさせていただき喜ばれる顔を見て嬉しく思い、敬老会、老友会、虚空蔵菩薩大祭(如意寺)等に招かれアトラクションとしてつたない芸を今だに持続させていたたいしております。それと自発的な善意として老人ホーム慰問等数回ボランティアさせていただいております。

取り立てて指導上の講師を招いているわけではなく、自分達での創作舞踊です。それぞれの持ち合わせた特性を生かして、振り付け構成、メイク、衣装の考案、着付け等々にチームワークよろしく共に楽しんでおります。忙しい家業の中にも互いに励まし、互いを認め合い、助け合うグループです。

「かがし」のように素朴であたたかく実りを楽しみたい意味で考えたグループ名なのです。出演者一同は、この発表会に参加の機会を得たよろこびを、今後のサークル活動への励みにしている事と思えます。

あとになりましたが、発表会関係者の皆様には当日は勿論の事、前日からのご活躍、本当にご苦労様ございました。



# 芸能サークル発表会に参加して

民謡玉音会 竹内行雄

# 芸能サークル発表会

宮津踊同好会 磯野睦子

去る十月二十五日、由良小学校体育館に於て、公民館主催で芸能サークル発表会が開催されました。参加者として、いささか所感を申しのべたいと思います。

この日の為、精進しけい古を重ねてきた各サークル。一生懸命琴を弾き、一生懸命詩吟、民謡を唄い、一生懸命舞い踊る、

一心に取りくむサークルの姿に感動しました。サークル独特の持ち味を充分に生かした素晴らしい発表会だったと思います。

会場が一体となり応援と拍手に揺れる光景は、都会にない由良にふさわしい情緒があり、豊かさのある発表会でした。はじめの発表会なのによくこまめでけい古を重ねてきた各サークルに拍手を送ります。又、大きな自信になったと思います。

サークル活動は趣味だけでなく相互の親睦と地域の文化に寄与する目的をもっています。この様にサークルが一体となり活動できれば、地域の活性化と文化に寄与することができるものと思います。

それには地域の方々のご理解とご支援が、絶対的に必要となり公民館活動の課題として、研究していただきたく思います。サークル活動をする事によって体も心も健康になります。地域の皆さんのサークル参加を呼びかけします。

最後になりましたが、芸能サークル発表会の成功には、公民館長をはじめ役員関係者の並々ならぬ熱意とお骨折りがありました事を心より厚くお礼申し上げます。

一日と冬を感じさせる季節になりましたが、由良地区の皆様お元気で過ごしてはいかがでしょうか。

さて、去る十月二十五日、公民館主催の文化祭参加の第一回芸能サークル発表会を開催していただき、多数の来観をいただきましてありがとうございます。其の節には舞台、音響、司会の方達には大変お世話になりました。御苦労さまでした。

八月でしたか館長より常日頃各サークルで活躍しておられるも発表する場所が無くてはもったいないから、今年第一回のころみとして開催しようと思うがどうでしょうかという有難いお話をいただき、ぜひという事で今回の発表会を開催していただく事ができました。

出演者の皆様には日頃大変お

忙しい中、夜の練習にと頑張っていたいただき、発表会を盛り上げて下さいました。

私達の舞踊もただの楽しみでやっているだけではなく、こうした文化活動を通じて地域の皆様と友好を深めて、仲良く友情のきずなを結んでいきたいと思っております。少しでも由良地区の文化事業の一環として役に立てれば幸いです。

又頭も使い、身体も動かしますので美容体操もかねて老化防止にとつてもよい運動になると思います。ぜひ皆さん参加されたいかがでしょうか。



# 歳末を迎えるにあたって

由良駐在所 坂本 誠 史

## 一、はじめに

その昔、東京がまだ江戸であったころ、職人たちが大八車に、かまどやせいろ、うす、きね、まきなどを積んでまちを回り、もちつき歌に合わせ身振りも面白く、もちつきをした風習があったようです。

しかしながら最近では、真空パックのおもちや、丸もちを買ってくる家もあり、自分たちでついたもちを正月に食べることも少なくなってきたようにも思われます。

もちつきのスタイルも変わりましたが、特に保存方法などは水もちにすることも冷蔵庫の普及で忘れられつつあります。

しかし、正月になればもちを食べるといふ風習は、変わりが

ないようです。

このように、正月になれば、おいしいおもちが楽しく食べられるよう、次の事に留意して頂き気を引き締めて一年を締めくくり、新年を迎えましょう。

## 二、年末は御用心

家を空けることも、またお金を持ち歩くことも多くなる年末この時期を狙った犯罪が多発します。年末はドロボーも必死になっていきます。そんなドロボーにスキを見せないよう次のことに注意して下さい。

(一) 外出前やおやすみ前はカギの確認を。

(二) 旅行などで家を空ける時は、新聞などの配達を一時中止しましょう。

(三) 多額の現金、貴重品を家に置かないようにしましょう。

(四) 金融機関での大金の出し入れの際は、車等を利用するなとし、途中で寄り道をせずに真つすぐ帰りましょう。

(五) 車を離れる際には必ずキーを抜いて下さい。

## 三、無事故の年末

年末は何かと気ぜわしくなるものです。だからといって、車を運転するときでも、そのような気持になることは非常に危険なことです。

無理なスピード、無理な追い越し、見とおしの悪い交差点での一時不停止……。

どれも死亡事故につながるような無謀運転です。

ゆっくり、心に余裕をもって冷静な運転姿勢で心掛けて下さい。

(一) 年末相変わらず後を絶たないのが飲酒運転による事故です。「乗るなら飲むな、飲んだら

乗るな」を忘れずに。

(二) 手軽で便利なミニバイク普及率が上がるにつれ、事故も多発しているのが現状です。死亡率も大変高く、ヘルメットは必ずかぶり、法定速度を守り、安全運転に心掛けましょう。

(三) 交通事故の時、致命傷となりやすい頭部胸部の損傷から命を守ってくれるシートベルト。シートベルトをした人が助かり、してなかった人が死亡するケースは多くあります。運転時には必ずシートベルトを。

## 四、おわりに

これら犯罪や交通事故は、ちょっとした心の緩みから発生するものです。

より良い年末年始を迎えるため、一生懸命、各種犯罪の予防、交通事故防止に由良地区の皆さんと共に努力精進していきたいと思えます。

## 【お知らせ】

## 由良地区公民館に生涯学習教室を開設

由良地区公民館が由良の里センター横に生涯学習教室を開設することになりました。

建物は旧出張所で、観光協会が数年間使用していたのですが、市当局に模様替をしていただき、外回りも整備して、生涯学習教室として、此度十二月より公民館の管理で運営していくことになりました。

生涯学習の趣旨については皆さんも既にご承知の通り、私達は時代の変化に対応して、生涯を通じて、充実した生甲斐のある人生を送るために、自ら進んで学習することでありますが、その学習の為の教室として、皆さんに解放して、使用していただくことになりました。従って使用していただく対象は、生涯学習としてのサークル

の活動を中心としますが、他の団体の研修の場としていただくも結構です。但しこの建物の広さが八畳敷一間と五畳敷程の板張りですので、少人数の会合となります。

備品類はまだ充分ではありませんが、視聴覚研修の為のテレビ・ビデオの設備があります。又、流し、ガス台もありますのでお茶を沸かす程度は出来ます。皆で有効に使用していただき且みんなのものとして美しく整理し合う教室と致してほしいものと念願しています。

利用申込については次の要領  
◎ 申込は由良の里センター事務所備付の申込書により事前  
◎ 使用時間は朝は九時からと、

夜は十時までとします。

◎ 使用に当っては、当分の間、整備費として一回三〇〇円程度を納めて下さい。

◎ 使用に際しては、機械・器具類も皆で大切に取り扱いよう

## 【ご報告】

## 宮本和彦画伯より

## 由良公民館へ風景画の寄贈

由良地区出身の画伯宮本和彦氏が、西舞鶴高校の級友の友情により舞鶴で作品展を開いたのは今年の十月でありました。赤

を基調とした独自の心象風景画百二十点余は、人々の心に深い感動を与え、非常な好評でありました。

その際の代表作七〜八点を、十一月の由良文化祭に出品いただき大変な風格を添えていただいたのでありますが、宮本氏のご好意により、その中の「岬の見える風景」の大作一点を由良

う心がけ、使用後は後仕末をキッチリとしていただき、防犯、防火にも厳重に注意を怠らないよう努めて下さい。

(由良地区公民館)

公民館に寄贈していただきました。

この「岬の見える風景」は八十号という大きなもので、宮本画伯の産れ育ったこの故郷を想う心から生ずる優れた風景画で見覚えのある由良の家々の遙か先の東の海の岬を眺めた立派な作風の大作であります。

宮本和彦氏のご芳情を厚く感謝し、永く由良公民館にその大作を掲げ、記念させていたゞきたいと存じております。ほんとうに有難うございました。

# 郷土に於ける澤井市造翁(三)

作 中西 孫兵衛 (先々代)

由良の歴史をさぐる会 四 方 寿 朗

(四)

明治拾六年二月二十二日森本重五郎次男藤吉氏を養子に貰ひ市造君は同年退隠して藤吉氏戸主となる同年五月五日分家して北海道札幌縣札幌区二條西四丁目へ戸籍を轉じたり

同年九月五日に山形縣鮑貝海郡鵜渡川原町字戸澤町三浦勘助長女まさなる婦人を妻として入籍の届出をなせり此婦人は是より以前の内縁者と思ふ

其後明治二十八年十月十四日附を以て同所三浦米蔵方へ離縁となせること戸籍面に明かなり

此離縁たる本人雙方の合意より出でたるに非ず或者の奸策に出で妻女に対し百万煽動を加え無根の事まで悪く告げ身を引かせ

たるものと其當時専ら噂せり私も市造君より大略承りたる事もあり成程噂の如く本人達の意思にあらざりしも成行上已むなき次第にて郷里の親類も深く遺憾とし小室の老母も盡力され又まさ女よりも事情の顛末を訴えられし事もあり仙太郎氏の如きは是非回復させる積にて貳拾八年離縁後も尚ほ保護を絶たず三四回に百貳拾円餘をまさ女の依頼に応じ貸し与え其金は其儘になり居れるが是は敢て意にも介せざれども覆水再び盆に復らざりしは返す返すも遺憾なりと仙太郎氏常に語られた。

市造君より承りたるに餘程の資産を遣はしたれども彼は兄弟の為に潰れてしまひ其末死んだと

の事不便なれども豫め此事あるべきを案じ懇々論したるが其甲斐なく彼も定めて地下に大後悔を為し居るなる可しと憮然として語られた。

此婦人に付明治四十年のおはるさん葬式済たる後市造君と塩見和尚と私の三人種々既往の事を語り合ひたる折節和尚よりおまさ様の施餓鬼を誦みて上げなさいと申し出られたが市造君答へて其御心附は恭なけれど成行上私の名義にては男として出来ません寧ろ市良の名義施主なれば私は異議は申ませぬ又市良としては勤めるが當然でございませうけれども今や彼は御承知の通海外修業の身であれば左様の御話に豫る時であるまいとの答であつた。

斯くて拾六年五月中旬に市造君は前途の目的を抱いて北海道に向ふ其の出立さるゝ際森本仙太郎氏は小樽港有室町山伽に金六拾円貸附あり之の請求を市造君に托し借用証書並に委任状を渡

し其他に旅費の内へ金拾圓を給し本家弥蔵氏よりも拾圓貸したるは事實なれども返納の有無は興り知る処にあらず尚ほ小室の伯母さん迄も若干金を貸されたと聞けり

昨明治四十四年十一月小室老母死去の際市造君は先に小室家より借用せる金額其内譯年号月日迄委しく語り金は小額にて恩借せしもさしたる程にも感じ居らず僕の大々の感謝に耐えないのは鞠育された恩である是は全く僕の生母に外ならぬ感じがするので片時も其恩を忘れた事は無い今斯くして僕の身命を維持するのは皆伯母が養育の賜だ此伯母無かりせば多分市造の身もなかりつらんと思ふ此故に衆蔵は不服ならんも僕の母として葬式を営みたい親類へは頼みて承諾を得たが君よりも此旨衆蔵へ話して置いてくれ云々借當時金員の事は別に意にも留めず聞流したが今日となりては惜しき事なりきと思へり若し此時に確たる

記憶に印しなば茲に特筆大書せんものと呼々

明治拾七年の秋市造君突如帰国された此度の要件は頗る苦心慘澹たるものにて君が談話の除幕は苦しかりしならん其は君が營業資金に充てんが為め一度藤吉氏に譲渡したる山林並に田地を悉皆売拂ひ一時之を充用し他日繰合せ就りなば返済すべしとの要旨なり當時親類會議には棟梁たるべき本家の伯父既に世を去り藤吉氏は未だ年少にて異議を唱ふべき身にもあらず此議に付ては晴天の霹靂にて或は五郎兵衛家の前途を悲観する者もあれど却説拒むも情理に反すればとて終に此依頼に応ずる事となり売拂済の上十月十五日に地所と代金の授受をなし市造君は營業地へ引返されたり其後星移り物換り榮枯地を換へ藤吉氏より度々無心を吹き懸け貰ひ得たる金額多大なる数に止りたるは相違なきも全部之を貰ひたるにはあらず田地買戻し或は山林に換ふる

代償として土蔵を建築し貰ひたりといふに帰するならん歟と私は信じ居れり

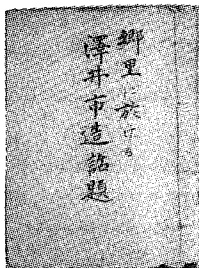
明治拾八年の秋市造君飄然として帰国し私の宅を訪問し語て曰く今回京都より宮津へ馬車通の工事ありて請負入札も不日なり就ては当今各地方共不景氣にて労働者の苦しみ察するに餘あり当地方も亦其歎を洩れざるべし之が救済の法を講ずるは人道の正に盡すべき処殊に郷里の為一層力を盡すべき秋とす幸に当村地内に大工事の衝に當り居れば此仕事をして村の労働者の職に就かしめなば一挙兩全と信ず依て全村一致地元請負を出願し幸に許可の上は技術上は全然僕が引請くべし但だ一ツは責任者の表的となるべきは君を措て他に索むべからず且府廳へ出頭して事由を解陳せざるべからず之が弁舌は僕の辞する処にあらざるも未だ信用なし君幸に同意を表し同道して君の名の下にやる事にしたし是に就きては村の決議

を第一とす是亦君の勞を煩はさん幸に決議とならば直ちに府廳に行かざれば入れ済とならんも計り難し勿論此工事にして不幸失敗せば責任者たる君も亦た僕と同一境遇に陥る覚悟ならんを要すと私は此話を聞くや当時年齒も廿七八歳青春の血に富み猪進的にて殊に土工杯には何等の経験もなく只一心に市造君の言葉を信するより外なし其時凡此工事即ち當村人家端れより栗田迄を一区域と聞く費額の概算如何と問へば素より胸算は熟せり先一萬円以内ならん多分府廳は八千円内外の豫算ならん其位ならば出来る見込なりと兎に角村へ相談して呉れとの要求に私も漠然ながら之を快諾し翌日村内上等の地位にある人七八十名も如意寺に招集し午后一時頃より四時過迄此問題の可否を評議して貰ふに其結果は労働者救済の点は賛成なれども未經験なる事業殊に土工なぞは危険言ふべからず一朝失墜の暁は延ひて孫兵

衛の家を潰してもならず左なくとも誰人の受負にもせよ固より地内に起るべき工事はらんには自然労働者の需用を来し使役さるゝ理なれば折角沢井市造氏の厚意は感謝すべきも先づ前件相談の要は御辞退すべく悪しからず傳へられたしとの決議とはなりぬ会散じ私は藤吉氏宅へ市造君を訪問して此顛末を報告したれば是非に及ばずと莞爾として此話は互に取消となれり

市造君は最早滞在する必要なければ明朝出立すべしとて又の再会を期し袂を分ち私は自宅に帰り昨日来の事を追思して寝に就きたり

夜半人静まり四隣寂たる頃門を叩く人あり起き出でゝ見れば大石福蔵氏松本孫兵衛氏を始として四五名の人なり。



# 川柳

宮津番傘川柳会

鮮やかな花びら明日を疑わず

城ひとつ建てて分別くさくなる

大森 美智子

秋空の高さ寡黙な透明度

少年の夢が広がる青い空

田村 キヌエ

人ひとり差して苦悩の指疼く

螢火の燃えてニヒルな風に会う

飯沢 鳴窓

## 編集後記

◎ 庄内由良との交流会が意義深く開催され、その稿も数多く寄せていただき嬉しく存じます。

千四百年もの昔、蜂子皇子が難を遁がれて、この由良の港から出羽に向け出港なされたのであるが、勿論その当時のことは文献もなく想像するしかない。

造船の技術も進んでいないその頃に船一艘（或は二〜三艘か）仕立てるのは仲々であり、船頭、乗組員を集めるのも容易なことではないと思うものである。

非運の天皇家の皇子さまを、北海のさいはての国へ、荒浪を越えて無事お連れ申し上げるのである。もとより己の命などは考えていない勇者である。

由良からこの船に乗って漕ぎ出た人は、再び丹後には帰ることなく、庄内の由良の地に住みつき、新しい楽土をつくり、その地域の漁業か農業又は皇子の警固の役等にその一生を捧げた

のであろう。庄内由良の方々、祖先の地は丹後の由良だと言われる所以である。私は交流会に出席して不思議に思ったのは、初めてお逢いした方々が、旧知の友人の様に錯覚したことである。子供達もそう感じたのであらうか。短歌「子らに蘇る」にある蜂子皇子の夢が子らの胸に実感として蘇るのかも知れない。これから二つの由良が、皇子とお互いに交流を深めることは誠に慶ばしいことと存じます。

◎ 芸能サークル発表会は公民館として初めての試みであったが、発表者の理解と協力により真摯な発表会として好評を得たことは嬉しい限りであり、関係の方々へ深甚の敬意を表します。今後文化祭の作品展と同様、この芸能の発表会にも力を注いでいきたいと存じますのでよろしく願います。各サークルの皆様は今後益々のご精進とご発展を祈りおります。（小室記）

Main body of text, consisting of several paragraphs of faint, illegible text. The text is too light to be transcribed accurately.

